

-ニクイ/-ヅライの特性と使用動向

1LT14001G 青木花香

1. 問題

- (1) a. ok 黒板の文字が見えにくいので、視力が落ちているのだろう。
b. ok 黒板の文字が見えづらいので、視力が落ちているのだろう。
- (2) a. *何かと生きにくい世の中になっている。
b. ok 何かと生きづらい世の中になっている。
- (3) a. ok 服が燃えにくいように作られています。
b. *服が燃えづらいように作られています。

形容詞性接尾辞-ニクイと-ヅライはどちらも同じように使用するとおぼやかりだが、(2)(3)のようにどちらかが使えない場合もある。

そこで卒業論文では次の(4)の問いに対する考察を行った。

- (4) 一見同様の使い方をしている-ニクイ文と-ヅライ文では、どのような違いがあるのか。

2. 先行研究

多くの先行研究において、次の(5)が前提とされている。

- (5) -ニクイは外的要因文において使用され、-ヅライは内的要因文において使用される。

特に鈴木（2014）では、(5)を前提としつつ-ニクイ・-ヅライにおいて詳細な分析がなされており、以下(6)が指摘されている。

- (6) a. 実現不可能性が高い場合-ニクイが多く選択されやすく、不可能性が低くなるにつれ-ニクイの割合が減少する。
b. 心理的抵抗感の大きさに応じて-ヅライが選択されやすくなり、特に「申し訳無さ」が困難の原因となっている場合には-ヅライが選択されやすい。
c. 「身体的痛み」が要因となっている場合、外的要因である「けが」であるほうが-ヅライが選択されやすい。

しかしアンケート調査¹の結果、(5)や(6)は必ずしも成り立たないことがわかった。

- (7) 身近な人だからこそ、打ち明け (にくい・づらい) ことってあるよね。
(結果) 内的要因文と考えられるが、-ニクイの割合が多くなっていた。
- (8) a. 説明書が複雑すぎてわかり (にくい・づらい) なんだよ。ちょっと待ってて。
b. うーんドクダミ茶か…苦味が強くて飲み (にくい・づらい) からいいや。
(結果) (8a)と(8b)では-ニクイの割合の差はそれほど大きく出なかった。
- (9) a. (痔の薬は) 恥ずかしくて買い (にくい・づらい) からまだ買っていないの。
b. 太っている頃に撮った写真だから見せ (にくい・づらい) んだけど…いいよ見ても。
(結果) 普遍的な恥ずかしさがあるとされる(9a)より(9b)のほうが-ヅライの割合が高くなった。
- (10) a. 指先をけがしちゃって、痛くて缶が開け (にくい・づらい) から開けてくれる?
b. 虫歯ができてしまって、痛くて噛み (にくい・づらい) んです。
(結果) 怪我を要因とする(10a)より(10b)のほうが-ヅライの割合が多くなった。

したがって、従来の仮説を再検討する必要がある。

3. 新たな仮説の導入

(11)-ニクイと-ヅライの差異について

- a. -ニクイは、単純に「客観的にその動作を行うことが難しい」、「難易度が高い」、「可能性が低い」という場合に使用される。
- b. -ヅライは、「辛い」から来ていることもあり、動作主がその動作によって文字通り「辛い」と感じる、すなわち精神的に影響を受ける場合に使用される。

¹ 18~75歳の合計203名の男女に、Google フォームを使用した選択式のアンケートを行ってもらった。使用した例文には、(8)-(10)などのように鈴木(2014)で使用されていたものを会話文に書き直して作成したものと、(7)や(12)のように執筆者が作成した例文がある。

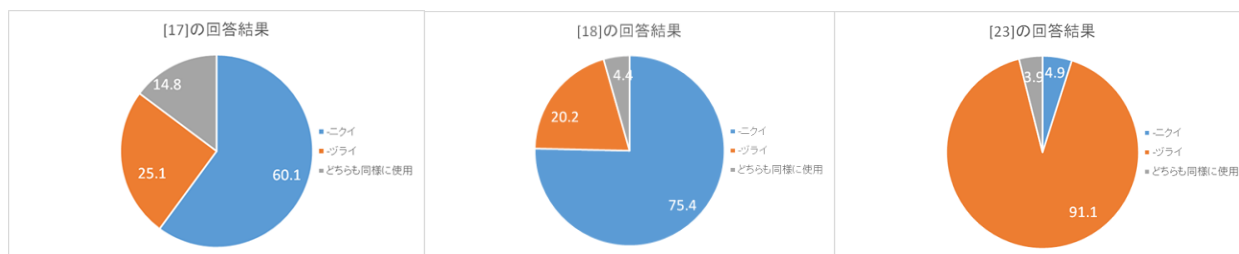
4. 根拠

- (12) 生き（にくい・づらい）世の中になったもんですよ、全く。
（従来の仮説）会社や他人などの外的要因が考えられるため、-ニクイが許容されても良いはずである。
（新たな仮説）精神的な影響を受けず、単に物理的に生きることが困難な状況というものは想定することが難しいため、-ニクイが許容されない。
- (13) マメができてて、痛くて歩き（にくい・づらい）の。
（従来の仮説）マメが出来ていることによって歩くことが困難であるため、外的要因と判断され-ニクイが選択されるはずである。
（新たな仮説）単純な困難さのみを示す-ニクイよりも、「痛くて」とあるため「痛み」と「なかなかスムーズに歩くことが出来ないもどかしさ」が強調されると考え、-ヅライが選択されやすい。

5. 無意志動詞と-ヅライの共起について

なお先行研究では、(5)のほかに以下の(14)も前提とされている。この点についても調査を行った。結果、(15)が得られたが、-ニクイの割合が最も多いものの、-ヅライが0%となることはなかった。特に(15c)では-ヅライの割合が過半数に及んだため、(14)は妥当ではない。

- (14) 無意志動詞と-ヅライは共起しない。
- (15) a. うーん…前より見え（にくく・づらく）なった気がします。
b. うわぁ…めっちゃ居（にくそう・づらそう）…。
c. そのままだと髪色が出（にくい・づらい）ので、一度黒染めを落としましょうか。



6. -ヅライ使用における世代間の差異について

高島（2007）では「-ヅライが近年広く使われるようになってきている」という意見も見られ、執筆者の実感としてもテレビや普段の会話では-ヅライが多用されていると感じられる。そこで次の(16)についてもアンケート調査を実施した。

(16) 若年層における-ヅライ使用の拡大は実際に起こっているのか。

調査の結果、以下の表が得られた。この表から、数の上では確かに-ニクイの使用が多いものの、若年層においては高年層と比べて-ヅライの使用範囲が広く、かつ-ヅライが-ニクイの使用範囲を脅かしていると考えられる。

	若年層		高年層	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
-ニクイ	410	63.0	557	74.9
-ヅライ	349	53.6	265	35.6

7. まとめ

- (17) -ニクイ・-ヅライの選択は困難さの原因で判断されると考えるのではなく、-ニクイは「単純に動作が困難であること、難易度が高いこと」のみを表し、-ヅライは「困難さによって動作主がなんらかの心理的影響を受ける」ことを表すと考えるべきである。
- (18) 無意志動詞と共起しないと考えられてきた-ヅライだが、現在それが変化し、無意志動詞と共起する例が多く見られるようになっている。
- (19) -ヅライ使用の世代差を見た結果、若年層において-ヅライが-ニクイの使用分布を侵していることが確認され、先行研究では断言されるに至らなかった-ヅライの台頭を、数値の上で立証した結果となった。

8. 参考文献

- 鈴木基伸（2014）「困難さを表す『にくい』と『づらい』はどのように使い分けられているかーアンケート結果の分析と考察ー」大手町大学論集第15：95-118
- 高島俊男（2007）「『にくい』から『づらい』へ」文藝春秋『文藝春秋』85(1)：86-88.